

## 特集／戦後70年 秋田工業を巡る終戦前後

生徒は3分の1位でほとんどの生徒は勤労動員で軍需工場に出ている。昭和20年4月には市立工業学校が廃校となり、採鉱科と冶金科は県立秋田工業学校に編入し、工業化学科は移管となった。

また、入学時には4年修学で卒業だったが、昭和22年の学制改革により5年で卒業と1年延長した。などをお聞きした。

また、参考資料としては廃校時の記念誌「冶金科・金属工業科・材料技術科六十九の歩み」を見せて頂き、終戦前後の状況を詳しく知ることができた。

### 4) 秋田県立図書館で秋田県教育史を調査

終戦前後の教育関係の出来事を公文書で確認するため、秋田県立図書館を訪問した。秋田県教育委員会が編纂した「秋田県教育史 第1巻から8巻の全巻」に目を通し、戦中戦後の参考になる記録を調査した。

以上の調査の結果をまとめると次の通りである。

### 5) まとめ

i. 戦争の拡大によって軍需工場で働く多くの若者が戦地に送られ技術者が不足していた。一方、経済活動に国家の統制が加わるようになると、配給の分配が商業活動の主務とされ商業教育が軽視された。

昭和18年10月12日には「教育に関する戦時非常処置方策」によって、秋田商業学校は工業学校に転換させられることになった。

昭和19年に秋田市立商業学校は生徒募集を停止し、秋田市立工業学校が開校した。秋田市立工業学校は4年制で、国民学校初等科(小学6年)卒業を入学資格として、工業化学科・採鉱科・冶金科の3科各40名でスタートした。

この年、秋田商業学校の2年から5年生と新設の秋田市立工業学校1年生は同じ校舎で学んでいた。

ii. 同じ昭和19年、秋田市では工業学校を開校してみたものの、工業の専任教諭はおらず専、県立工業、帝石等から嘱託で依頼した。さらに、実習の設備費は予想外に多額を要し、そのうえ戦時下で資材の入手が非常に困難だった。このままでは、十分な工業教育を行うことができないので、県に委託した方が良く、ということになった。一方秋田県では、新設する県立女子医学専門学校校舎を確保する必要があった。

秋田市と秋田県の2つの問題を一挙に解決するために、秋田県が市立工業学校の生徒を県立秋田工業学校に受け入れ、秋田市が市立工業学校と市立商業学校が使用している校舎を県立女子医学専門学校校舎として、秋田県に譲渡した。

昭和20年秋田市立工業学校は廃校となり、4月生徒は秋田県立工業学校の採鉱科・冶金科に編入された。また秋田工業学校に無かった工業化学科は移管された。

なお、秋田市立商業学校の校長をはじめとする教員および在校生(3から5年生)は、秋田県立医学女子専門学校の片隅で借家住まいの不遇な生活を送った。

iii. 終戦後、昭和21年4月1日秋田市立商業学校は復活し、9月茨島の旧秋田日満工業学校の跡地に転移した。

県立女子医学専門学校は昭和22年4月失火により校舎が全焼し、10月学制改革による大学昇格の要請がかなわず廃校となり、生徒は散り散りに全国の大学医学部に編入した。

変遷図の作成は収集した資料や、過去の会報KANASAなどを調査し推定で「学制変遷図」を作成した。

これを若杉 威氏(S25E卒)に確認依頼したところ同様な図を作成して頂き、相互に意見交換して1ヶ月ほどかけてやっと完成したものである。

その結果が次頁に掲載の、監修：若杉 威氏(S25E) 作成：加賀谷 健治(S36E)「県立秋田工業 終戦前後の学制変遷図」である。



若杉 威氏

### 2) 学制改革の変遷

県立秋田工業学校	小学 6年	高等科 2年	工業学校 3年
秋田市立商業学校		商業学校5年	
秋田県立秋田中学校		中等学校5年	

### (1) 戦前の制度

i. 小学6年・高等科2年・工業学校3年

### (2) 昭和19年度の「戦時非常処置」

- i. 県立秋田中学校・秋田市立商業学校・県立秋田工業学校(航空機科)・秋田市立工業学校など中等学校の修学年限を5年から4年に短縮。
- ii. 秋田市立商業学校は昭和22年度終了をもって廃校の予定となり、生徒募集停止。秋田市立工業学校設立。
- iii. 県立秋田工業学校に航空機科設置(ただし、小学6年卒入学、修学年限4年)

### (3) 昭和20年度の「戦時非常処置」

- i. 県立秋田工業学校は市立工業と重複している採鉱科、冶金科の募集を停止。
- ii. 県立秋田工業学校は高等科2年卒業で入学し修学3年で卒業を、小学6年卒業で入学し修学4年で卒業に変更した。これにともなって、高等科1年2年終了者を配慮して次の取り扱いをした。(この扱いが判明し作図が完成した。)

昭和19年の工業1年生は工業3年生に、工業2年生は工業4年生とそれぞれ1年多い学年に進級した。

さらに、高等科2年卒業者は工業2年生に入学し、高等科1年終了者の一部の成績優秀者も工業2年生に入学を認められた。しかし、ほとんどの高等科1年修了者は、小学校6年卒業者と一緒に1年生に入学した。このように高等科を修業した生徒の殆どは小学6年卒業者より1年多く修学することになった。

iii. 4月、廃校となった秋田市立秋田工業学校採鉱科・冶金科の生徒は県立秋田工業学校に編入。工業化学科は県立秋田工業学校に移管された。

この年の採鉱科・冶金科は、市立商業での入学試験だったため、県立秋田工業で採用した機械・電気・土木・建築の4科と異なり、高等科からの編入者はいなかった。

iv. 終戦により8月31日航空機科は機械科Bと名称変更。

昭和19年度	昭和20年度	備考
工業2年	工業4年	工業2年から工業4年に
工業1年	工業3年	工業1年から工業3年に
高等2	工業2年	工業2年に編入
高等1	成績優秀者	工業2年に編入
	工業1年	工業1年に編入
小学6		工業1年に入学

## 3. 秋田工業に5年も6年も在籍した理由

### 1) 調査の背景

秋工百年誌掲載の「秋田工業の学生改革」若杉 威氏(S25E卒)の記事で、秋田工業に5年も6年間も在籍した人が1000人もいたことが述べられている。また、これまでの会報KANASAには4年から6年の在学した同窓生の記事が数件掲載されている。しかし、なぜそうなったのか理由が分からず十分理解出来ないままだった。

そこで、直感的に分かる「学制変遷図」の作成に挑戦した。

## 特集／戦後70年 秋田工業を巡る終戦前後

### (5) 昭和23年度

- i. 校名が「秋田県立秋田工業高等学校」となる。
- ii. この年は中等科5年修学の資格で昭和24年3月に卒業するか、翌年高校3年で卒業するか選択できた。

### (6) 昭和24年度

- i. 昭和25年3月、新制工業高校1回生卒業。

## 4. 秋田日満工業学校について

この内容は秋田県教育史掲載の要約である。

満州国建国にともない、昭和13年(1938年)5月秋田日満技術工養成所として財団法人鉄工技術員協会によって設立された私立の実業学校。学校建築や設備費は満州国政府から交付され、1年次と2年次に満州語を履修することが大きな特徴だった。

昭和19年(1944年)4月秋田日満工業学校と改称された。3年間の全寮制にして、5民族(日本・満州・朝鮮・蒙古・白系ロシア)の俊英が学び、終了後は満州国において技術指導者となり、満州鉱工業の発展確立と日滿両国鉱工業界の渾然一体化を図ることを目的とした。

昭和20年(1945年)太平洋戦争の終結と共に満州国も終焉し、本校も廃校となった。廃校後の生徒の一部は秋田工業に編入された。跡地は、昭和21年9月秋田市立商業学校の校舎に使用された。

以上

### (4) 昭和22年度の「学制改革」

- i. 小学6年・中学3年・高校3年・大学4年となる。
- ii. 新制高等学校に転換する経過処置として秋田中学・秋田商業学校・秋田工業などの中等学校の修学年限4年の制度を廃止し、小学6年卒業で入学し5年間修学で卒業する、旧制中等学校の制度を採用した。さらに、新制高校に進学するために新制の中学に相当する併設中学2年と3年を秋田工業学校内に設置した。

昭和22年度	昭和23年度	昭和24年度
※ = 中等4年	= 中等5年	
工業4年	高校2年	高校3年
併設中3年	高校1年	高校2年
併設中2年	併設中3年	高校1年

※昭和22年度工業4年卒の制度が廃止され昭和23年度中等科5年卒に1年延長された。このため秋田工業には昭和23年3月の卒業者はいない。

## 県立秋田工業 終戦前後の学制変遷図

監修：若杉 威 (S25E)  
作成：加賀谷健治(S36E)

凡例		太枠内は同一学年		市立工業学校		秋田工業学校		併設中学校		秋田工業高等学校			
学科	生年度	昭和18年度	昭和19年度	昭和20年度	昭和21年度	昭和22年度	昭和23年度	昭和24年度	昭和25年度	昭和26年度	昭和27年度	昭和28年度	
機械 電気 土木 建築	昭和3年	工業1年	工業2年	工業4年	高等2年・3年間在学だが4学年修業の卒業証書								
	昭和4年	高等科2年	工業1年	工業3年	工業4年	高等2年・3年間在学だが4学年修業の卒業証書							
	昭和5年	高等科1年	高等科2年	工業2年	工業3年	= 中等4年 工業4年	= 中等5年 高校2年	3年間⇒4年間在学・中等5年卒					
	昭和6年	小学6年	高等科1年	成績優秀者 工業1年	工業2年	併設中3年	高校1年	高校2年	高校3年	3年間⇒5年間在学・高校卒業第1回			
	昭和7年	小学5年	小学6年							3年間⇒5年間在学・高校卒業第1回			
	昭和8年	小学4年	小学5年	小学6年	工業1年	併設中2年	併設中3年	高校1年	高校2年	高校3年	4年間⇒6年間在学・高校卒業第2回		
採鉱 冶金	昭和3年	工業1年	工業2年	工業4年	高等2年・3年間在学だが4学年修業の卒業証書								
	昭和4年	高等科2年	工業1年	工業3年	工業4年	高等2年・3年間在学だが4学年修業の卒業証書							
	昭和5年	高等科1年	高等科2年	採用者無し									
	昭和6年	小学6年	市立工1年	工業2年 市立工から編入	工業3年	= 中等4年 工業4年	= 中等5年 高校2年	4年間⇒5年間在学・中等5年卒					
	昭和7年	小学5年	小学6年	工業1年 市立工で入試・編入	工業2年	併設中3年	高校1年	高校2年	高校3年	4年間⇒6年間在学・高校卒業第1回			
工業化学	昭和6年	小学6年	市立工1年	工業2年 市立工から移管	工業3年	= 中等4年 工業4年	= 中等5年 高校2年	4年間⇒5年間在学・中等5年卒					
	昭和7年	小学5年	小学6年	工業1年 市立工で入試・移管	工業2年	併設中3年	高校1年	高校2年	高校3年	4年間⇒6年間在学・高校卒業第2回			
	昭和8年	小学4年	小学5年	小学6年	工業1年	併設中2年	併設中3年	高校1年	高校2年	高校3年	4年間⇒6年間在学・高校卒業		
航空機 S21.8.31 機械科B	昭和6年	小学6年	工業1年	工業2年	工業3年	= 中等4年 工業4年	= 中等5年 高校2年	4年間⇒5年間在学・中等5年卒					
	昭和7年	小学5年	小学6年	工業1年	工業2年	併設中3年	高校1年	高校2年	高校3年	4年間⇒6年間在学・高校卒業第1回			

※上図は、加賀谷氏作成のものをそのまま画像化したものです。

※注：入学時の在学期間⇒卒業時の在学期間